

財務分析のための 企業会計ベーシック

10
PDU
取得
ストラテジー

中堅社員
新任管理職向け

企業の共通言語である会計の基礎知識と 活用できるスキルが身に付く

企業の課題を会計という視点で分析し対策を考えられる内容

ストーリー仕立てのeラーニングコースです。事業企画部に異動してきた主人公が会計を学ぶ必要に迫られ、友人や家族も巻き込んで会計の勉強を始めます。各章の始めにあるショートストーリーで、彼らはいつも課題にぶつかります。彼らが各レッスンで、課題に対して会計という視点から何を学び、どのように分析し、対策を立てていくのか、学習者もいっしょになって学習を進めていくことができます。

財務諸表の基本P/L、B/S、C/Sを確実におさえます

事業に必要な不可欠な要素は「ヒト、モノ、カネ」と言われています。本コースでは、その中の「カネ」の基本である「財務諸表」についてしっかりとおさえます。損益計算書（P/L）、貸借対照表（B/S）、キャッシュフロー計算書（C/S）の構成を理解したうえで、そこから収益性、安全性、効率性、成長性などを読み取り、分析することを学びます。

計算演習でお金の流れを実感できます

学んだ内容を生かして計算演習に取り組みます。モノとカネが動いたときに、継続を前提とする企業（going concern）の財務諸表がどのように変化していくのか、実際に計算しながら確認します。

理解が進む計算演習

モノとカネの流れによって財務諸表が変化していくことを、計算しながら確認できる計算演習がついています。

2. 部品Aを1000個、部品Bを1000個、部品Cを1000個仕入れました。代金は翌月で翌月払いにしました。

P/L			
B/S			
現金	2,000	買掛金	
原材料		資本金	2,000
左側の合計		右側の合計	

チェック

2. 部品Aを1000個、部品Bを1000個、部品Cを1000個仕入れました。代金は翌月で翌月払いにしました。

P/L			
B/S			
現金	2,000	買掛金	300
原材料	300	資本金	2,000
左側の合計	2300	右側の合計	2300

正解

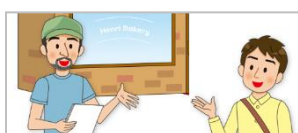
コース構成

課題の提示 → 問題点の気づき → 手法の説明 → チェック

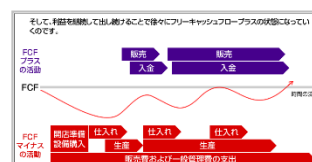
各章の始めで、主人公が直面する問題は何であるかが明らかにされます。



登場人物の会話により、直面する問題の背景にあるのは何か、明らかにしないといけないことは何か、気づきを促します。



各テーマにふさわしい知識・手法を説明します。



確認テスト、エクササイズ、計算演習で学んだ内容を確認します。

A社とB社のP/Lを比較して、下の文章の()に当てはまる語句を入力します。

A社		B社	
金額(円)	単位(円)	金額(円)	単位(円)
売上高・営業収益	180,000	売上高・営業収益	120,000
売上コスト	60,000	売上コスト	45,000
売上利益	120,000	売上利益	75,000
販売費および一般管理費	100,000	販売費および一般管理費	15,000
営業利益	20,000	営業利益	17,000

ショートストーリーはこんな内容です

会計は企業の 共通言語

財務諸表には何が書いてあり、それをどのように見ればよい、賢一さんといっしょに理解していきます。



アンリさんとの再会

会計の勉強を続けている賢一さん、アンリさんと一緒に財務諸表を作ることができるでしょうか？



アンリさんの心配

アンリさんのお店は預金が増えません。なぜ？ 賢一さんは説明できるようになるでしょうか？



アンリさんに 話合える！

賢一さんは、競合対策で行う値下げの影響を、損益分岐点を使って説明しようとがんばります。



アンリさん、新しい 注文を悩む

賢一さんは、大量受注のための投資や値下げの影響を予測できるでしょうか？



賢一さん、発注先を 決める

賢一さんは、今まで培ってきた会計の知識をもとに発注先を検討し、決定できるでしょうか？



コース目次

本コース、スキル・エリアとタレント・トライアングルの関係

営業から事業企画？

第1章 財務諸表とは

- レッスン1 - 3つの財務諸表
- レッスン2 - 損益計算書 (P/L)
- レッスン3 - 貸借対照表 (B/S)
- レッスン4 - 損益計算書 (P/L) の見方
- レッスン5 - 貸借対照表 (B/S) の見方

第2章 財務諸表の仕組み

- レッスン1 - P/LとB/Sの仕組み（実取引と、財務諸表の変化）
- レッスン2 - 取引によるP/L、B/Sの変化
- レッスン3 - 損益計算書に計上するルール（3つの原則）
- レッスン4 - 損益計算書への計上（1）収益と費用
- レッスン5 - 損益計算書への計上（2）減価償却費
- レッスン6 - 決算の確定
- レッスン7 - 計算演習

第3章 キャッシュフロー計算書

- レッスン1 - なぜ、キャッシュフロー計算書が必要なのか
- レッスン2 - キャッシュフロー計算書の構成
- レッスン3 - 営業キャッシュフロー：間接法による計算
- レッスン4 - 投資キャッシュフローや財務キャッシュフロー：直接法による計算
- レッスン5 - 財務諸表の見方

レッスン6 - キャッシュフロー計算書の見方と事業のライフサイクル

レッスン7 - 計算演習

第4章 コスト分析と損益分岐点

- レッスン1 - 変動費と固定費と損益分岐点
- レッスン2 - 限界利益と損益分岐点売上高の求め方
- レッスン3 - 損益分岐点計算の応用

第5章 予測財務諸表

- レッスン1 - 今期の収支を予測する（値下げの影響）
- レッスン2 - 損益計算シミュレーション
- レッスン3 - 予測財務諸表
- レッスン4 - 計算演習

第6章 会社の見方

- レッスン1 - P/L では売上と利益を確認
- レッスン2 - B/S では借入金と自己資本率を確認
- レッスン3 - P/L と B/S を見る
- レッスン4 - 最後に
- レッスン5 - PMI(R) 申請用情報

章ごとに「まとめ」「確認テスト」「エクササイズ」があります。

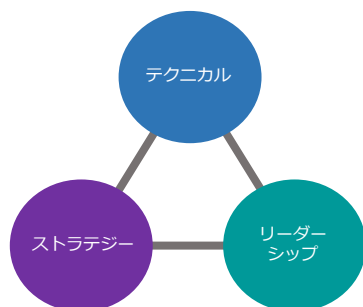
- 受講期間：6ヵ月（＋閲覧期間6ヵ月）
- 標準学習時間：10時間

- 価格（税別）：¥18,000
※研修運営費用含む。ボリュームディスカウントあり。
- チュータによる個別指導：なし

PDU取得シリーズについて

■多様なラインナップ

- ・基礎固めから資格更新、実務への応用まで、多様なレベルに対応
- ・PMI®の「タレントトライアングル」で規定されたサブ・カテゴリー別にコースをご用意
- ・複合カテゴリーをカバーしたコースもご用意



■ストラテジック&ビジネスマネジメント (Business Acumen)

パフォーマンスを向上させ、ビジネス成果をよりよく提供する業界や組織に関する知識と専門知識

■テクニカル・プロジェクトマネジメント (Ways of Working)

プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメントの特定ドメインに関連する知識、スキル、行動

■リーダーシップ (Power Skills)

組織がビジネス目標を達成するのに役立つリーダーシップ指向活動や分野横断的活動に特有の知識、スキル、行動

（PMI日本支部「CCRハンドブック」2017/4/3改定版より）



全コースの最新ラインナップとサンプルは、左のQRコードからご覧いただけます。



株式会社ネットラーニングは ATP (Authorized Training Partner) として本コースでの PDU 提供を許可されています。

PMP® はプロジェクトマネジメント協会 (Project Management Institute, Inc.) の登録商標です。
PMBOK®ガイドとは、Project Management Institute, A Guide to the Project Management Body of Knowledge ガイドの略称です。
PMBOK® はプロジェクトマネジメント協会 (Project Management Institute, Inc.) の登録商標です。
PMI Registered Education Provider ロゴは、プロジェクトマネジメント協会 (Project Management Institute, Inc.) の登録商標です。